

有馬大臣と対談

9月1日の防災の日を間近に控えた8月30日、「防災科学技術研究の現状と将来」をテーマに有馬朗人文部大臣・科学技術庁長官と片山恒雄防災科学技術研究所長が対談しました。

対談は、阪神・淡路大震災を教訓とした、その後の都市における防災対策などについて、有馬大臣の質問に片山所長が答える形で進められました。特に、地震による災害を未然に防ぎ、また、被害を最小限にするために重要な防災科学技術研究の現状などについて、

熱心な対談が行われました。

なお、この模様は9月5日(日)の朝、CSテレビ放送局「朝日ニュースター」の寺子屋21世紀～有馬大臣が語る未来提言～で放映されました。

(問い合わせ先：管理部企画課)



外国特派員と意見交換

8月30日、東京・有楽町にあり、50年以上の歴史を誇る日本外国特派員協会において、「阪神・淡路大震災から4年、その間の震災対策」という内容で、私たちの研究所の片山所長と岡田地震調査研究センター長が、講演を行いました。

当日は、8月17日にトルコ北西部を襲った大地震（マグニチュード7.4）の直後ということもあって、外国特派員など30名を超える記者の出席がありました。講演後のフリーディスカッションでも質問や意見交換が活発に行われ、地震防災に対する関心の高さがうかが

われました。

意見交換は、片山所長から「災害を正しく恐れる心がまえを持つ個人、エンジニア、企業などを育てていくことが大切」との提言で締めくくられました。

(問い合わせ先：管理部企画課)

